

京都文教大学に対する改善報告書検討結果

<大学評価実施年度：2019年度>

<改善報告書検討実施年度：2023年度>

京都文教大学から改善報告書の提出を受け、本協会は改善に向けた大学全体の取り組み、1点の改善課題及び1点の是正勧告の改善状況について検討を行った。その結果は、以下のとおりである。

<改善に向けた大学全体の取り組み>

大学評価の結果を受けて、「大学運営会議」において評価結果を報告するとともに、改善・向上のための活動に活用すべく、指摘事項の確認と組織レベルでの対応方針を策定し、これらの取り組みを進めることを確認した。改善課題については、臨床心理学研究科において、年度ごとの活動計画のなかに改善活動を定め、「自己点検・評価委員会」による毎年度の点検・評価活動を通じて進捗管理を行った。改善の経過報告を受けた「大学教学会議」が当該研究科の改善活動の指導・支援を行うことで全学的に改善に取り組んでいる。

<是正勧告、改善課題の改善状況>

提言の改善状況から、改善の成果が十分に表れているとはいいいがたい。

是正勧告については、大学運営・財務における財務基盤の確立の問題に関し、引き続き是正を図る必要がある。

個別の提言に対する改善に向けた大学の取り組み及びそれに対する評価は、以下のとおりである。

1. 是正勧告

No.	種 別	内 容
1	基準	基準 10 （2）財務
	提言（全文）	「要積立額に対する金融資産の充足率」が低く、かつ、低下傾向にあり、「事業活動収入（帰属収入）に対する翌年度繰越支出超過額（翌年度繰越消費支出超過額）の割合」は増加していることから、教育研究活動を安定して遂行するために必要な財政基盤は確立できていない。今後は、策定した財政計画に基づく施策を確実に実行し、財政基盤の確立に向けて継続的に取り組むよう是正されたい。

京都文教大学

	検討所見	2022 年度までの中長期経営改善計画に基づき、財務基盤の確立に取り組み、大学の事業活動収支差額比率が改善されていることは評価できるが、法人全体では「要積立額に対する金融資産の充足率」は依然として低くかつ低下傾向にあり、「事業活動収入（帰属収入）に対する翌年度繰越支出超過額（翌年度繰越消費支出超過額）の割合」は高いままである。 今後は、策定した学園第 3 期中長期計画に基づく人件費総額の圧縮及び経費削減などの施策を確実に実行し、財務基盤の確立に向けて継続的に取り組まれない。
--	------	---

2. 改善課題

No.	種 別	内 容
1	基準	基準 4 教育課程・学習成果
	提言（全文）	臨床心理学研究科博士前期課程では、教育課程の編成・実施方針を定めているものの、教育課程の編成及び実施に関する基本的な考え方が示されていないため、改善が求められる。
	検討所見	臨床心理学研究科博士前期課程において、教育課程の編成及び実施に関する基本的な考え方を明示した教育課程の編成・実施方針を定めており、改善が認められる。ただし、2024 年度から適用する新たな教育課程の編成・実施方針については、公表に至っていないため、適切な時期に周知・公表することが望まれる。

◆ 再度報告を求める事項

是正勧告No. 1 については次回の大学評価の際に改善状況を再度報告されたい。

以上